

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットごとに理念を提示して、朝夕の申し送りでも唱和し実践出来る様になっている。	基本理念と方針については2階玄関エレベーターホールと事務所に掲示し実践と共有に努め、来訪者にもわかるように掲示している。家族に対しては利用契約時に説明を行い支援方針を明確にしている。また、職員は理念、方針の持つ意味を理解し、アットホームな雰囲気を大切に利用者へ寄り添い支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前は地域の行事にも参加していましたが現在は散歩すら控えています。運営推進会議も書面で行っており、関わりがないのが現状です。	開設以来自治会費を納め回覧板も回していただき地域の一人として活動して来たが、現在は新型コロナの影響を受け全ての行事が取り止めになり残念な状況が続いている。コロナ収束後には地域のお祭り、オレンジカフェへの参加、中学生、高校生との交流活動、各種ボランティアの受け入れ等を積極的に再開する予定でいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての勉強会などを行えばと考えていましたが、これもコロナの為実現はしばらく難しい現状です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面で行っているため、話し合いができていません。	平常時には家族会会長、区長、市高齢者活躍支援課職員、地域包括支援センター職員、民生委員3名、あんしん(介護)相談員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催しているが、現在は新型コロナの影響を受け書面での開催となり、利用状況、事故報告、行事報告等を文書にし市担当部署あてに届けている。今後、会議参加メンバー全員に書面を届け、ご意見を頂きサービスの向上に繋げられるように計画をしている。	新型コロナ収束後の運営推進会議の推進については地域に密着したホームとして各方面からの会議参加メンバーの追加を検討し、ホーム行事への参加等、運営推進会議を活かした積極的な取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	あんしん相談員さんに来て頂いていましたが、現在は来ていません。介護認定の代行や認定調査の立ち会いで利用者の情報を提供しています。	介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し職員が対応している。現在はコロナの影響を受け家族の立ち合いは行っていない。市のあんしん(介護)相談員の来訪も現在は中止の状況であるがコロナ収束後には再開予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは理解しており、転倒防止としてメロディーセンサーを使用している。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は日中開錠されており出入りについてはセンサー音で知らせよう工夫している。現在は外出傾向の強い方はいないが職員がきめ細かく所在確認を行い安全の確保に努めている。転倒危惧のある方が数名おり、家族と相談の上足元センサーを使用している。3ヶ月に1回、法人の身体拘束適正化委員会を開き拘束についての意識を高め支援に取り組んでいる。	

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は身体的なことだけでなく、言葉の虐待にも注意するように日頃から努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在出来ていませんが、学ぶ機会を持ちたいと考えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約内容の説明をし、疑問点などの確認をしながら理解・納得をして頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナにて家族会が実施出来ない為、直接ご家族の意見を聞くことがない。面会に来られた時は近況報告を行い、また、電話やラインで状況をお話しています。面会に来た時に記入できるよう意見箱は設置している。	殆どの利用者は自分の意思を表せる状態であるが職員は優しく寄り添いきめ細かな問い掛けを行うことで希望を受け止めるよう心掛けている。家族の面会はコロナの影響を受け現在は事前予約を頂き玄関先での窓越し面会を15分以内で行っている。そのような中、家族には日々の様子を毎月発行されるお便り「まゆ新聞」でお知らせし、利用者一人ひとりの様子についてはスマートホンのLINEを用い動画と写真でお知らせし喜ばれている。また、年3回行っている家族会も現在は行えない状況が続いているが、収束後には再開する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議にて、議題提案ができるようにしている。	月1回全体会議を行い、利用者一人ひとりについての情報共有に合わせ、リーダーから見て接遇等気になることを話し合いサービスの向上に繋がるようにしている。法人として人事考課制度があり職員は年2回目標に沿い自己評価を行い、上長評価後、所長による個人面談が行われ意見・要望等が聴かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課にて目標を挙げてもらっている。他、週報を使って個々の努力や実績を確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合った外部研修に参加している。会社内の研修も定期的に行っていたが、コロナにて現在は行っていない。		

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社内の交流は会議や研修等で行っています。 リモート、ラインでネットワーク作りをしています。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わりを多く持ち、本人が安心できるような対応を心がけている。関係性を良くしていきながら本人の要望、困っていることなどを引き出すようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約時、ケアマネも同席し不安なこと要望等をお聞きする。入所後はラインや電話で施設での様子を報告します。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設での生活に対する意向をお聞きしてケアプランに反映しています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭という意識を持ち、一緒に洗い物をしたり、洗濯を干したりします。その際、対等な立場でお話を聞いたり、話したりして楽しんでいます。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	困ったことがあった時はご家族にお電話をして相談するようにしている。協力を仰ぎ一緒に解決策を考えている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナでなかなか外出できないが、行きつけの床屋へ行っている利用者もいる。年賀状のやり取りは職員が手伝い毎年出している。以前は家族と食事に行ったり、買い物へ行ったり自由に行っていた。	平常時であれば友人、知人、親戚の来訪がありお茶をお出しし寛いでいただいているが現在は新型コロナウイルスの影響を受け自粛状況が続いている。収束後には再開する予定である。そのような中、家族と電話のやり取りをされている方もいる。また、年末には職員がお手伝いをして手づくり年賀状を作成して家族にお出しし喜ばれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションをとることが難しい方もいらっしゃるが、常に皆さんが輪から外れないよう観察し配慮している。関係性が保てるよう、時には職員が間に入り関われるよう支援している。			

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られた方に関しては、情報提供している。必要時には引き続き、相談、支援に努めようと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月1回の職員会議、アセスメント会議で情報収集を行っている。ケアプランにも反映できるように、居室担当者から一人一人の希望を聞いてもらった。記録はなるべく本人の言葉を入力するようにしている。	日々の関わり方を大切に1対1で寄り添い支援をする中で様々なお話をし意向に沿えるようにしている。好きな飲み物等は幾つか提案して選んでもいただき、入浴後の洋服選びについても居室にて一緒に選ぶようにしている。日々の気づいた特記事項については個人記録に纏め、申し送り時に確認し日々の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族にお聞きしたり、アセスメントシートに記入して頂いている。また、入居時のケアマネージャーに情報提供を送ってもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の職員会議で情報共有を行っている。朝の申し送り、バイタルチェック、排便チェック、月一の体重測定にて現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新時はケアマネージャーを中心に、アセスメント会議を実施。居室担当者が参加、そうでなければ、リーダー、管理者が参加し提案、検討している。	職員は2~3名の利用者を担当し、居室管理、誕生日のプレゼントの準備等を担当している。合わせてケアマネージャーが作成したモニタリング表を用い日々モニタリングを行い、アセスメント会議において話し合い、ケアマネージャーがプラン作成を行っている。家族の希望は現在はコロナ禍でもあり電話等で希望をお聞きしている。短期目標管理6ヶ月、状態が安定している場合は1年で見直しを行い、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、利用者一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は毎日記録担当職員が記入している。体調の変化や特記事項に関しては、その都度記録に入力し、職員間で共有している。毎月の職員会議では居室担当者が1ヶ月の様子をまとめている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の付き添い、救急搬送に関してはご家族の都合がつかない場合職員が付き添いを行っている。なるべくその時々ニーズに答えられるよう柔軟に考えていきたい。七瀬の杜、デイサービスとも連携・協力体制を整えている。		

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回理美容院が来ている。以前はボランティアさんも来ていたが、コロナで今は地域との関わり合いが持てない。こういった状況でもどうしたら関わられるのかを今後考えていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に医療機関についての希望をお聞きしている。現在は全利用者18名が協力医の月2回の往診で対応している。	現在、全利用者についてホーム協力医の月2回の往診で対応している。また、同じ法人の訪問看護師の来訪が毎週金曜日にあり、利用者の健康管理に合わせて協力医との連携が図られ、24時間のオンコールも含め医療体制が整えられている。歯科については必要に応じ協力歯科の往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日に訪問看護師がきてくれるため、情報や気づきを相談している。漏れがないように書面に残して伝えている。その他、急変、事故などの際はその都度電話で相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供をしている。ご家族と連携をとり状態の把握に努め、必要時には病院に連絡をして情報交換と退院の調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した際の指針を説明している。終末期には医師から説明を頂きご家族の希望確認後、看取り支援に取り組んでいる。	重度化に対する指針があり、利用契約時に説明している。終末期に到った時には家族、医師、看護師、ホームで話し合い、医師の診断の下、家族の意向を確認し同意書にサインを頂き看取り支援を開始している。この1年以内で7名の看取りを行ったという。コロナ禍という状況下であるが、家族には居室にて最期の時を共に過ごしていただき感謝の言葉を頂いている。また、年1回は訪問看護師より看取りについての講話を頂き、心のこもった支援に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡先、対応マニュアルは事務所に設置している。今は管理者の指示を仰ぐようになってきているが、応急手当てや初期対応の訓練も定期的に行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施。全職員が階段から車椅子を降ろす避難誘導ができる。今後は夜間想定も訓練も行い、できれば地域との協力体制が築けるような訓練も行っていきたい。	年2回消防署への届け出を行い、防災訓練を併設のデイサービスと合同で行っている。火災想定で消火器を使っての消火訓練に合わせ、非常階段より全利用者を1階駐車場まで移動し避難訓練を行っている。車いす対応の方が半数強おり職員が二人がかりで降ろし、実践への備えとしている。備蓄として「水」「乾パン」「缶詰」等が3日分準備されているが、内容の見直しを行う予定である。	コロナ収束後には年2回の訓練の内1回は運営推進会議に合わせ訓練を行い、地域との協力体制の構築に繋げられることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユマニチュードの実践を基本にしている。法人のチェックシートを活用し接遇は特に重要視している。居室に入る際は本人に断り、中にいる場合はノックをしている。掃除等も本人に断って行っている。	接遇チェックリストを用い利用者との接し方に気を配っている。支援に関わる時には利用者の許可を頂いている。合わせて居室に入る際も支援内容を話し許可を頂きノックと声掛けを忘れないよう徹底している。また、トイレ介助の時にはドアの開閉に気配りするよう心掛けている。呼び掛けは希望を聞き、苗字か名前を「さん」付けでお呼びしている。現在コロナ禍で法人での研修会が行われていないため、月1回全体会議の席上所長がプライバシー保護についての話をし日々の支援で実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援をするにあたり、必ず本人に意思確認をしている。散髪、入浴、レク等で嫌だということに関しては無理強いしないようにしている。居室担当者が本人の希望をお聞きしたり、記録に残すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寝る時間は個々に任せている。食後は居室で休まれたり、フロアでTVを見たり好きなように過ごして頂いている。朝が弱い方もいる為、起きれない時は延食で対応している。		
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	月1回理美容に来て頂き、ご自分の好みを言ってもらっている。洋服は着換えが必要な入浴時などは本人に確認しながら、着たい物を選んで頂く。洗顔が出来ない方にはホットタオルを用意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人が得意なことを把握し、積極的に家事に関われるように支援している。季節を感じられるように正月、クリスマス、土用の丑の日等行事食を取り入れている。朝、夕は手作りの食事で色彩を考え、美味しいと好評です。	殆どの利用者が自力で食事が出来る状況である。献立については朝食と夕食は法人の栄養士が立てたものを一部アレンジし調理し提供している。昼食の「副菜」は配食会社のものを使用している。利用者は盛り付け、野菜の下処理等のお手伝いをしている。コロナ禍で外食が出来ない状況が続いており、時折「カツ丼」や「ピザ」等をテイクアウトし楽しいひと時を過ごしている。更に、行事の際には「ちらし寿司」や季節に合わせた料理を楽しんでいる。また、「カップラーメン」がお好きな方が多く、月に数回はお出しし喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が考えたものをアレンジして作っている。それぞれの好みや体重、排尿量、排便、状態等を考慮して食事量や水分量を個別対応している。		

グループホームまゆ

自己	外部	項目	外部評価(評価機関記入)	
			自己評価(事業所記入) 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアの声がけを行い、必要時であれば介助を行っている。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在オムツ使用者は18名中3名。トイレの方ではご自分のペースで行かれる方が多い。その中でも失敗の心配がある方に対しては職員が介助に入っている。排泄のパターンを把握するようにしている。	自立の方と一部介助の方がそれぞれ三分の一強ずつで、全介助の方が数名という状況である。起床時、おやつ前、食事前、就寝前の定時誘導に合わせたり、一人ひとりのケース記録を参考にトイレ誘導を行い気持ち良く過ごしていただこう支援している。また、排便促進を図るべくお茶を中心に、朝の牛乳の摂取、おやつ時は好きな飲み物、入浴後にはスポーツドリンクと、1日1,000cc以上の水分摂取に取り組んでいる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、起床時に牛乳を飲んでいいる。 午前中は体操を行い、歩ける方は職員と一緒になるべく歩くようにしている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週2回の入浴を行っている。 拒否がある方は、無理強いせず次の日にお誘いしている。入浴剤の他、ゆず湯と菖蒲湯は毎年行っている。	見守りで自立している方が数名、一部介助の方が三分の二強という状況で、週2回の入浴を行っている。入浴拒否の方がいるが優しく寄り添い話をすることで入浴に繋げている。入浴後にはスポーツドリンク等の飲み物を楽しんでいる。また、季節により「ゆず湯」「菖蒲湯」等も楽しんでいる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は午睡を進めているが、決定は本人に任せている。午前中は体操、午後は大人の学校で活動量を増やし夜間の睡眠に繋がるようにしている。きれいな布団で気持ちよく眠れるよう週1回リネン交換を行っている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬一覧表を作成し誰でも確認でき、理解できるようにしている。往診医に相談しながら症状の変化に合わせて対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の力量に合わせた作業や作品作り等を通じて生きがいややりがいを感じられるようにしている。仕事が好きな方、得意な方、歌が好きな方、甘いものが好きな方、嫌いな方等その方の好みに応じて提供している。	

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出は難しい。落ち着いたら、一人一人の希望に沿った外出、行事を行いたいと思っています。以前のように、計画を立てていなくても、ふらっと買い物等に行かれるようにしたいです。また、地域の方に協力して頂き、大がかりな外出にも行かれるようになればいいと思います。	外出時、自力歩行の方が三分の一強、歩行器使用の方が若干名、車いす使用の方が半数強という状況である。コロナ禍が続き外出が難しい状況が続いているが、天気の良い日にはホームの周りを散歩したりホーム内を歩き体を動かしている。春にはドライブを兼ね桜の花見にも出掛けたいという。職員が利用者を外にお連れしたいという気持ちを強く持っておりコロナ収束後には年間を通して計画を立て、外出、外出に出掛け楽しむ予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている方に対しては、無理に事務所で預かることはせず、入居契約時にご家族に紛失の恐れがあることも説明し、ご理解を得た上で所持して頂いている。買い物に出られた際は使えるように支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は時間を考慮して頂きながら、本人希望時にかけてたり、今はライン電話を使い顔を見ながら話している。手紙も本人に頼まれた際にはお出ししている。年賀状は毎年ご家族に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるように、フロアには季節に合った飾りつけをしている。室温調節はこまめに行い不快なく過ごせるように配慮している。テーブルだけでなく、ソファを設置し寛ぎのスペースを作っている。	季節の飾り付けが施された共用部分は食事スペースとソファが並ぶホールが続き、体操や大人の学校で一日の大半を過ごしている。掲示板には「まゆ新聞」等で、活動の様子が紹介されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアから離れた時はソファに座り、一人でゆっくりしたり、気の合う仲間と過ごされる。それぞれのペースで過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込む物は利用者、家族の自由でありお任せしている。	整理整頓が行き届いた居室には大きなクローゼットと洗面台が備え付けられプライバシーに配慮された造りとなっている。持ち込みは自由で、家族と相談し使い慣れた家具、イス、テーブル、ハンガーラック、テレビ等が持ち込まれており、家族の写真や自分の作品に囲まれ思い思いの生活を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を設置し間違えないよう工夫をしている。夜でもトイレがわかりやすく、一人で行かれるように看板を設置している。		